

(提言)「子どもの動きの健全な育成をめざして～基本的動作が危ない～」

1 現状及び問題点

近年の子どもの日常生活や運動遊びにおいて出現する基本的な動きは、1985 年頃と比較して未熟なレベルにあると指摘されている。幼少期（1 歳～12 歳）に基本的な動きが十分に習得されなければ、怪我や事故の危険性が高まり、体力・運動能力の向上に支障をきたし、長期的には壮年期での生活習慣病等への罹患、高齢期における寝たきりを招来することにつながりかねない。このことから、子どもの時期に基本的な動きを十分に習得しておくことが望まれる。

2 提言の内容

我が国の子どもの動きの現状及びこれまでの研究成果に鑑み、子どもの動きの健全な育成を目指して以下の 2 点を文部科学省及びスポーツ庁に対し提言する。

- (1) 子どもの動きが最も発達する幼少期に、全ての子どもが適切な動きを獲得する機会を均等に得られるよう、教育制度が整備されるべきである。具体的には、小学校体育教科書の作成、小学校での体育授業の質の向上を目的とした研修の充実、小学校への体育専科教諭の配置増加に加え、小学校教諭養成課程における体育・スポーツ関連科目の単位数や講義内容の充実が必要である。
- (2) 子どもの動きに関する基礎研究の推進に取り組むべきである。具体的には全国的・経時的な子どもの動きの質の大規模調査の推進並びに最新の研究手法を導入した基礎研究の推進体制を整備する必要がある。